

## 第9回 JCO 焼却活動第三者会議議事録

### 1. 日 時

2018年5月21日(月) 13:30~15:25

### 2. 場 所

(株)ジェー・シー・オー 東海事業所 (第4会議室)

### 3. 議 題

- (1) (株)ジェー・シー・オー代表挨拶・出席者紹介
- (2) 前回議事録の確認
- (3) 前回会議における委員からの指摘等に対する対応状況
- (4) 焼却の運転実績、排気・排水等の実績報告
- (5) 焼却設備の見学
- (6) 質疑・意見交換・その他

### 4. 出席者

別紙のとおり

### 5. 配布資料

- ・資料9-1 第9回 JCO 焼却活動第三者会議 議事次第
- ・資料9-2 第8回 JCO 焼却活動第三者会議議事録【添付省略】
- ・資料9-3 焼却設備の運転実績、排気・排水等の実績

### 6. 議事内容

#### (1) (株)ジェー・シー・オー代表挨拶・出席者紹介

JCO代表者の挨拶および出席者の紹介が行われた。

#### (2) 主査挨拶

今回も会議メンバーに変更がないため、ざっくばらんなご意見をお願いしたい。JCO側もメンバー変更がないので、責任をもって最後までこの焼却活動を見届けていかれることを期待したい。

#### (3) 前回議事録の確認及び前回会議における委員からの指摘等に対する対応状況

資料9-2について、事務局より説明し、特にコメントはなかった。前回会議における委員からの指摘等に対する対応状況については“焼却の運転実績、排気・排水等の実績報告”の中で説明した。それ以外では、議事録4頁に記載の「溶媒ドラム缶置き場へのモニタリングポストの設置」に関して、2018年1月の空間線量調査会においてサーベイメータによる当該場所の空間線量率を測定し、問題のないことが確認された。

(4) 焼却の運転実績、排気・排水等の実績報告及び質疑・応答

資料9-3について事務局より説明し、以下の質疑・応答がなされた。

(主査)

前回、焼却対象溶媒がTBP/ドデカンのみではないとの報告を受けて、もう少し詳細な説明をお願いし、今後は種々の溶媒を焼却する予定であるとの説明があった。写真では、緑色のスケールが前回よりも多く、焼却対象溶媒の変化の影響が出ているため、さらに慎重な運転を行うとの趣旨の説明であった。

(住民代表)

臨界事故前にもJCOからガスや緑色の液が排出されたトラブルがあったと記憶しているが、これらの緑色はフッ素系の色なのか。

(主査)

通常運転時の緑色と現在燃焼している時の緑色は異なると思うが、何が原因と考えているか。

(事務局)

緑色に関しては、ステンレス金属の中に含まれるニッケルに起因する色である。

(住民代表)

紙類を焼却しないのは歓迎できるが、これは海外に搬出するのか。

(事務局)

紙類は一昨年から続いている海外搬出で対応する。

(住民代表)

今後2年間で終了するとのことだが、この焼却設備を解体する場合にどのような安全対策を講じるのか、また、HEPAフィルタの汚染と目詰まりがないのか、きちんと住民に説明してほしい。

(事務局)

設備解体時の対策については、2015年から本格的に開始した設備の撤去工事と同様に管理区域内の放射線防護対策等を進めていく。

(住民代表)

その時には沈殿槽の保管状況や線量の減衰を住民に公開する説明会を開催してほしい。

(事務局)

残留放射線はもう無いと考えている。

(主査)

そのような物が未だ残っていると思われる方もいらっしゃるので、残っていないことを伝えることも大事である。

(事務局)

6/27(水)に住民説明会の開催を予定している。毎年、この機会に不特定多数の方に施設をご覧いただくこととしてきた。これまでは更衣の都合等で大人数の方に管理区域内を見学頂くことは難しかったが、ご希望があれば対応させて頂く。

(有識者)

ステンレスの成分が溶け出しているのであれば、ニッケルだけではなくクロムも溶出し、これらが排気・排水に移行しているのではないか。

(事務局)

排水中のクロム濃度は問題ないことを確認している。処理前の水の中にはステンレス成分の含有量に応じた鉄、クロム、ニッケルが確認されている。クロムは公害物質としての排水基準があるため、処理を行い基準値以下にして排出している。

(有識者)

廃液処理の段階で澱物は発生するか。

(事務局)

資料の12頁でこれまで5mm厚のものが4.4mmに減肉したとあるが、この部分が水に溶解していると考えられる。クロムは6価の水溶性化合物として存在していると推定され、Ca共沈法で処理をするため、澱物が発生する。

処理をした澱物は固体廃棄物として保管する。なお、ご参考までに、今般、ウラン付着金属とウラン残渣に分けて海外搬出しているが、ウラン残渣はこの排水処理澱物に相当する。

(オブザーバー)

資料11頁で「煙道部の一部剥がれがあったが、剥がれを除去後、配管部表面を覆っている」の意味がわかりづらい。

(事務局)

キャストブルに一部剥がれがあるものの、配管部分が露出している状況ではないということである。キャストブルの厚みが5~6cmあるので、それが1mm剥がれても十分厚みが残っており、金属配管部分はカバーされている。剥がれたキャストブルは不要なので掃除した。

(主査)

紙類の焼却をしないで搬出することは、自社で発生した廃棄物を自社で処理する大前提上、若干気になる。

(有識者)

紙類は法的にどのような形で搬出するのか。

(事務局)

ウラン残渣として搬出し、海外のウラン回収処理の対象とできる。過去に可燃物を焼却した後に残った焼却灰もウラン残渣としてウラン回収することとしてきたが、焼却前の物もウラン回収が可能となることが確認できた。ゴミではなく、資源として回収する処理を委託する。

(有識者)

搬出した焼却灰は戻ってくるか。

(事務局)

戻ってこない。

(有識者)

資料の4～6頁の脚注に記載されている” cm3” の3は上付表示となっていないので修正のこと。

(住民代表)

ノウハウを蓄積し、他の原子力事業所に公開してはどうか。

(主査)

技術の違いもあるだろう。

(5) 焼却設備の見学(14:40～15:05)

(6) 見学後の質疑・応答

(住民代表 海老澤様)

前回、本米崎公民館で説明頂いたが、役員1名より質問を預かった。「4箇所の空間線量率測定結果は0.06～0.07  $\mu$ Sv/hであるが、焼却する前にドラム缶から取り出した時、どのくらいの線量率となるのか。

(事務局)

焼却している溶媒は、水と仮定した場合そのまま海洋に放流できる放射能レベルである。従って、測定下限値未満である。しかし、油類なので海洋に放流することができない。

(住民代表)

焼却するということは放射能レベルが高いのではないかと思っている。通常は線量を測定しても最大0.08  $\mu$ Sv/hくらいのものである。

(事務局)

焼却しても線量は上昇しない。

(主査)

そろそろ、焼却の終了時期が見えてきており、他に事業所内で処理が必要な物があるのか、それとも、法律が決まって処分が可能となるまで管理するだけなのか。来月の住民説明会で紙類は焼却しないことを説明すると、油類の焼却が2年で終了した後はどうするかとの質問が出るのが予想される。

(事務局)

住民の方へは、「長期計画にしたがって、このサイトをきれいな土地に戻すことを目指している」と説明している。これからJCOが実施するのは、既存設備の解体を10年間で実施し、これと並行して、リサイクル可能な物は搬出することである。最終的に残る放射性固体廃棄物は、最終処分地が決定するまで、当社サイト内で保管する方針である。したがって、10年間に実施することは明確である。その後については最終処分に関することが決まらなないと動きがとりにくいと考えている。

(事務局)

現在は事業計画の3年目となっているので、残りの期間は撤去工事があと8年間、ウラン残渣等の搬出が9年間となる。トータル20,000本のドラム缶の内、12,000本を海外搬出し、残りの8,000本はJAEA殿の処分場が完成するまで保管する。

(有識者)

残渣は最終的に戻ってくるのか。

(事務局)

残渣は戻ってこない。ウラン濃度が低いコンクリートなどは国内での処分となる。

(有識者)

機械油はどのような物か。

(事務局)

ポンプ等に使用している潤滑油等を考えている。これらはそのまま焼却するのではなく、灯油で希釈して焼却する。粘度の高い物やウラン濃度が高い物は焼却ではなく、固化処理対象としている。

(有識者)

焼却対象と固形化対象はどのように区別するか。

(事務局)

焼却前に個々にチェックする。

(有識者)

機械油は容易に燃焼しないので、灯油で希釈しても多量のススが発生する恐れがある。

(事務局)

十分検討したい。

(主査)

今回は11月まで順調に運転していただき、来月実施する減肉部の検査で問題なければ良いが、対策が必要となれば慎重に1歩1歩進めていく様お願いしたい。これから色々なものが混合された溶媒を焼却するため、早く焼却が完了されることを期待する半面、慎重に進めていただきたい。近隣の皆様も6月の住民説明会に参加いただき、忌憚のない意見をJCOへ伝えていただきたい。安全運転をお祈りして本日は終了とします。

以上

別紙

第9回 JCO 焼却活動第三者会議出席者（2018年5月21日開催、敬称略）

住民代表

No.		氏名	備考
1	東海村舟石川1区自治会	山川 典夫	
2	〃	寺門 博孝	
3	〃	水野 紀至	ご欠席
4	東海村外宿1区自治会	吉成 幸男	
5	東海村内宿1区自治会	本田 篤己	
6	那珂市本米崎自治会	海老澤 守	

有識者

No.		氏名	備考
8	放射性廃棄物の処理・放射線管理・保安等の専門家	吉澤 道夫	ご欠席
9	〃	清水 武範	
10	リスクコミュニケーションに係る専門家	土屋 智子	主査
11	近隣自治会からの推薦者	武部 慎一	
12	〃	恵利 いつ	ご欠席

オブザーバー

No.		氏名	備考
1	東海村村民生活部防災原子力安全課	飛田 佳祐	
2	〃	鈴木 廣美	
3	那珂市市民生活部防災課	桧山 和幸	
		会沢 透	

事務局（㈱ジェー・シー・オー）

No.		氏名	備考
1	代表取締役社長	桐嶋 健二	欠席
2	東海事業所長	北村 航一郎	
3	東海事業所副所長兼総務グループ長	清水 伸剛	
4	東海事業所安全管理グループ長	佐藤 克典	
5	東海事業所施設管理グループ長	篠原 篤	
6	東海事業所安全管理グループ担当課長	大関 昇	
7	東海事業所安全管理グループ担当課長	近藤 哲也	
8	東海事業所安全管理グループ担当課長	谷 俊二	

## 第9回 JCO 焼却活動第三者会議

## 議 事 次 第

## 1. 日 時

2018年5月21日(月) 13:30~16:00

## 2. 場 所

(株)ジェー・シー・オー 東海事業所 (第4会議室)

## 3. 議 題

- |                              |             |       |
|------------------------------|-------------|-------|
| (1) (株)ジェー・シー・オー代表挨拶・出席者紹介   | 13:30~13:35 | (5分)  |
| (2) 前回議事録の確認                 | 13:35~13:40 | (5分)  |
| (3) 前回会議における委員からの指摘等に対する対応状況 | 13:40~13:50 | (10分) |
| (4) 焼却の運転実績、排気・排水等の実績報告      | 13:50~14:30 | (40分) |
| (5) 焼却設備等の見学                 | 14:30~15:20 | (50分) |
| (6) 質疑・意見交換・その他              | 15:20~16:00 | (40分) |

## 4. 出席者(予定)

詳細は別紙のとおり。

## (1) 住民代表

- ①東海村舟石川1区自治会
- ②東海村外宿1区自治会
- ③東海村内宿1区自治会
- ④那珂市本米崎自治会

## (2) 有識者

- ①放射性廃棄物の処理・放射線管理・保安等の専門家
- ②リスクコミュニケーションに係る専門家
- ③近隣自治会からの推薦者

○オブザーバー：東海村村民生活部防災原子力安全課職員  
那珂市市民生活部防災課職員

○事務局：(株)ジェー・シー・オー

以上

# JCO焼却活動第三者会議殿

## 焼却設備の運転実績、 排気・排水等の実績

2018年5月21日(月)

株式会社ジェー・シー・オー

180521第9回焼却活動第三者会議資料

1

### 1. 焼却設備の概要

#### (1)焼却対象物

①油類(保管溶媒): 灯油成分に近い石油類で作業中に使用していたもの

- ・リン酸トリブチル(TBP)-ドデカン
- ・TOA-オクタノール
- ・TBP-灯油(ケロシン)
- ・機械油
- ・ダイフロイル(フッ素、塩素含有不活性オイル)

約100m<sup>3</sup>(200ℓドラム缶換算約500本)

②紙類 約200本(200ℓドラム缶換算)

#### (2)焼却炉

型式                    オイルバーナー燃焼式  
燃焼室サイズ        直径約0.9m × 長さ約2m

#### (3)焼却能力

油類(保管溶媒): 約30ℓ/時

#### (4)TBP(リン酸トリブチル)焼却後のリンの回収

TBPに含まれるリンは、

冷却塔 ・ スクラバ ・ ミストフィルタ によりリン酸として回収



## 2. 焼却の運転実績および排気・排水の実績(1)

- ・2015年1月19日～2018年4月30日 累積で約72m<sup>3</sup>の保管溶媒を焼却
- ・30%TBP-nドデカンのTBP濃度で焼却
- ・排気、排水中のウラン濃度は検出下限値未満で平常時と変わらず(問題なし)

		2015年												累計		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
稼働日数		日	6	6	6	14	13	12	15	11	17	13	17	10	140	
焼却処理量	溶媒液量	m <sup>3</sup>	0.68	0.67	0.59	1.51	2.19	1.57	1.85	1.31	2.87	2.09	3.15	1.85	20.31	放出管理目標値 (3ヶ月平均濃度)
	200ℓドラム缶換算	本	3	3	3	8	11	8	9	7	14	10	16	9	102	
排気 [第1管理棟] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注1)</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.5×10 <sup>-9</sup>
排水 [廃水ポンド] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注2)</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	8.0×10 <sup>-3</sup>

注1) \*: 検出下限値(3.7×10<sup>-10</sup> ベクレル/cm<sup>3</sup>)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

注2) \*: 検出下限値(7.4×10<sup>-4</sup> ベクレル/cm<sup>3</sup>)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

180521第9回焼却活動第三者会議資料

3

## 2. 焼却の運転実績および排気・排水の実績(2)

		2016年												累計		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
稼働日数 <sup>注1)</sup>		日	12	16	3	9	13	15	16	13	15	13	10	0	275	
焼却処理量	溶媒液量	m <sup>3</sup>	2.25	2.96	0.47	1.67	2.20	2.75	2.94	2.28	2.80	2.44	1.72	0	44.79	放出管理目標値 (3ヶ月平均濃度)
	200ℓドラム缶換算	本	11	15	2	8	11	14	15	11	14	12	9	0	224	
排気 [第1管理棟] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注2)</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.5×10 <sup>-9</sup>
排水 [廃水ポンド] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注3)</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	8.0×10 <sup>-3</sup>

注1) 2016年11月下旬～2017年2月中旬まで運転停止(設備点検整備、作業者が他業務に従事)。

注2) \*: 検出下限値(3.7×10<sup>-10</sup> ベクレル/cm<sup>3</sup>)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

注3) \*: 検出下限値(7.4×10<sup>-4</sup> ベクレル/cm<sup>3</sup>)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

180521第9回焼却活動第三者会議資料

4

## 2. 焼却の運転実績および排気・排水の実績(3)

		2017年												累計		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
稼働日数 <sup>注1</sup>		日	0	6	10	0	0	5	15	7	15	11	18	11	373	
焼却処理量	溶媒液量	m <sup>3</sup>	0	1.14	1.90	0	0	0.95	2.75	1.24	2.80	2.05	3.33	2.08	63.02	放出管理目標値 (3ヶ月平均濃度)
	200ℓドラム缶換算	本	0	6	10	0	0	5	14	6	14	10	17	10	315	
排気 [第1管理棟] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注2</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.5×10 <sup>-9</sup>	
排水 [廃水ポンド] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注3</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	8.0×10 <sup>-3</sup>	

注1)2017/2/20から運転再開、2017年3月下旬~6/15まで運転停止(保管溶媒の一部にダイフロイル(フッ素、塩素含有不活性オイル)の混入が判明、設備の腐食抑制対策、排気排水への影響確認)、6/16から運転再開。

8/23から保管中のTOA-オクタノールを10%混合した溶媒を焼却。

注2)\*:検出下限値(3.7×10<sup>-10</sup>ベクレル/cm<sup>3</sup>)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

注3)\*:検出下限値(7.4×10<sup>-4</sup>ベクレル/cm<sup>3</sup>)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

180521第9回焼却活動第三者会議資料

5

## 2. 焼却の運転実績および排気・排水の実績(4)

		2018年												累計		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
稼働日数 <sup>注1</sup>		日	8	14	14	18									427	
焼却処理量	溶媒液量	m <sup>3</sup>	1.52	2.64	2.67	2.61									72.46	放出管理目標値 (3ヶ月平均濃度)
	200ℓドラム缶換算	本	8	13	13	13									362	
排気 [第1管理棟] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注2</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*									1.5×10 <sup>-9</sup>	
排水 [廃水ポンド] (核種:U)	1ヶ月平均濃度 <sup>注3</sup>	Bq/cm <sup>3</sup>	*	*	*	*									8.0×10 <sup>-3</sup>	

注1)2017/8/23から保管中のTOA-オクタノールを10%混合した溶媒を焼却。

注2)\*:検出下限値(3.7×10<sup>-10</sup>ベクレル/cm<sup>3</sup>)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

注3)\*:検出下限値(7.4×10<sup>-4</sup>ベクレル/cm<sup>3</sup>)未満を示す(安全協定の放出管理目標値より1桁低い)

180521第9回焼却活動第三者会議資料

6

### 3. 設備点検(1)

1) 手順書に基づく、運転前後の日常点検

2) 法令設備の点検

水濁法の特定施設のスクラバー、冷却塔について1回／月実施し問題なし

3) 冷却塔上部、煙道部の腐食健全性分解点検

定期的に1回／年実施

(実施日 2018年3月20日：冷却塔上部

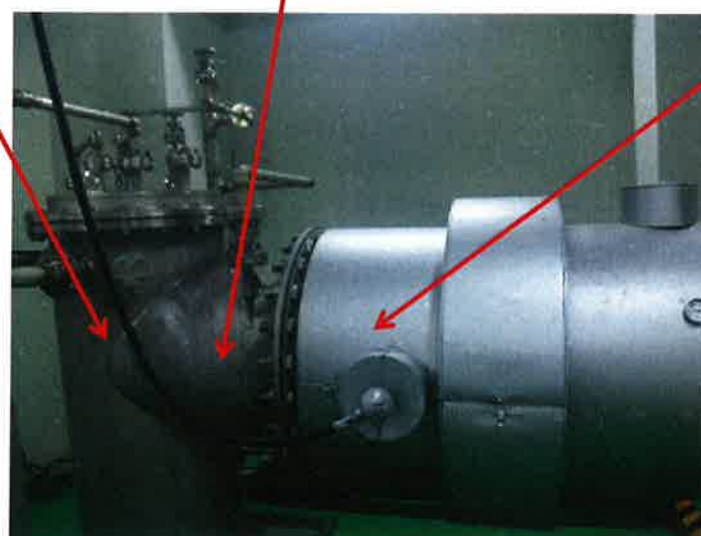
5月7日：冷却塔上部、煙道部)

**内部点検、肉厚測定の結果、問題なし**

### 3. 設備点検(2)

冷却塔上部、煙道部の点検箇所

冷却塔上部A 冷却塔上部B(内部にスリーブ)



煙道部

### 3. 設備点検(3)

#### 冷却塔上部、煙道部の腐食健全性分解点検

#### ①健全性判断基準（製作メーカー見解を参考）

##### 冷却塔上部（材質：ステンレス）

- ・内部点検で進行の恐れがある孔食が認められないこと
- ・製作厚さ5mmに対して1mmの減少までが許容範囲

##### 煙道部

- ・キャストブルに剥がれがなく、配管部（ステンレス）表面を覆っていること

### 3. 設備点検(4)

#### 冷却塔上部、煙道部の点検結果

#### ②内部点検結果

##### 冷却塔上部

- ・上部Aの排ガスが当たる方向の表面の一部にざらつき（摩耗）が認められたが、他の部分には認められず。
- ・上部Bの底部に緑色のスケールが付着していたが、除去し有意な肉厚の変化は認められず。

### 3. 設備点検(5)

#### 冷却塔上部、煙道部の点検結果

##### ②内部点検結果

##### 煙道部

- ・内部のキャストブルは、一部剥がれがあったが、剥がれを除去後、配管部表面を覆っている。
- ・外側の配管部への影響はなし。

### 3. 設備点検(6)

#### 冷却塔上部、煙道部の点検結果

##### ③肉厚測定

- ・冷却塔上部(測定:超音波厚さ計)
    - 上部B 14箇所(測定結果は5.1~5.2mm)
    - 上部A 10箇所(測定結果は4.4~4.8mm)
- ⇒上部Aの排ガスが当たる箇所で減肉しているが許容範囲内

## 4. 焼却運転、設備点検の実績と今後の計画(1)

- 安全最優先で通常運転の継続

- 焼却対象

約700本(200ドラム缶換算)に限定(当初計画)

油類(保管溶媒)約100m<sup>3</sup>(200ドラム缶換算約500本)

を焼却後、紙類約200本を焼却予定

⇒紙類の焼却計画を中止

残りは油類(保管溶媒)約28m<sup>3</sup>(約138本)

- 運転期間

油類のみ約5年 残り約1.9年

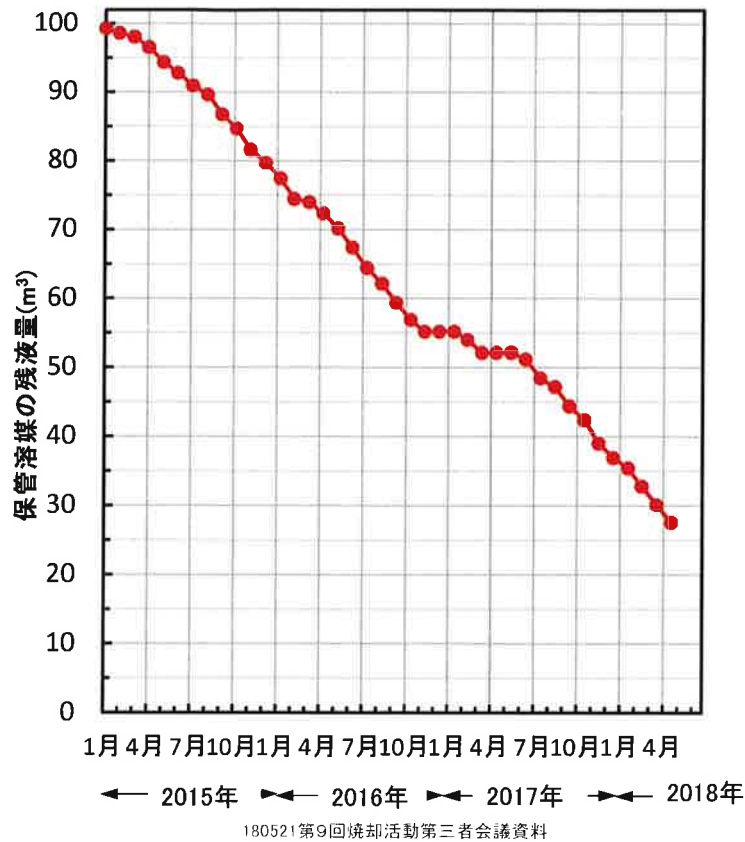
- 運転終了後の措置

設備解体

## 4. 焼却運転、設備点検の実績と今後の計画(2)

			2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
<b>1. 焼却溶媒組成</b>								
①20%~30%TBP-nドデカン(2015/5/8~)			■					
②30%TBP-nドデカン (ダイフロイル混入:2017/2/20~)					■	■		
③30%TBP-nドデカン(ダイフロイル混入+ 10%TOA-オクタノール混合:2017/8/23~)					■ →			
④TBP-灯油(ケロシン)(ダイフロイル混入+ 10%TOA-オクタノール混合)								
⑤機械油(灯油で希釈)								
⑥ダイフロイル(灯油で希釈)								
<b>2. 累積焼却処理量</b>	溶媒液量	m <sup>3</sup>	20	44	63	72		
	200Lドラム缶換算	本	102	224	315	362		
<b>3. 設備点検、保守 (●実績 ○予定)</b>								
①冷却塔上部、煙道部の腐食健全性 分解点検(年1回)				●	●	● ●	○	○
②煙道配管部の材質交換、 冷却塔上部Bにスリーブ設置(2017/4/25)					▲			
③冷却塔上部にSUS304製 保護テストピース設置(▲2017/4/25) 腐食状況確認・取り外し(▼2017/8/30)					▲ ▼			
冷却塔上部に Hastelloy 製保護テストピース 設置(△2018/6) 腐食状況確認・取り外し(▽2018/7)						△ ▽		
④フッ素、塩素に耐食性のある冷却塔 熱交換器に交換(2017/6/12)					▲			

## 5. 焼却運転の実績 -保管溶媒の残液量の推移-



15

## 参考資料

### 焼却設備計画の経緯(1) (2014年)

#### 2014年

- 1/ 6 設備撤去工事着工
- 8/ 8 第1回 第三者会議 : 規約確認、焼却設備進捗報告
- 8/28 住民説明会開催(5回目) : 設備見学、焼却設備進捗報告
- 10/ 6 放射線モニタリング測定値の公表開始
- 11/20 消防による危険物取扱所の完成検査受検
- 11/21 安全協定締結6自治体立入調査
- 12/ 3 近隣4自治会へ回覧 : 焼却設備の近況お知らせ
- 12/11 灯油・新品溶媒使用試運転開始
- 12/19 第1回 空間線量調査会
- 12/19 第2回 第三者会議 : 試運転状況見学、安全対策説明

## 焼却設備計画の経緯(2) (2015年)

2015年

- 1/17 近隣4自治会へ回覧 : 焼却設備の近況お知らせ
- 1/19 保管溶媒使用試運転開始
- 3/12 住民説明会開催(6回目): 試運転結果報告
- 3/16~ 通常運転に移行
- 4/ 9 第2回 空間線量調査会
- 6/11 第3回 第三者会議 : 通常運転状況見学、運転実績説明
- 7/22 住民説明会開催(定期) : 進捗状況報告
- 7/24 第3回 空間線量調査会
- 10/22 第4回 空間線量調査会
- 11/26 第4回 第三者会議  
: 通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

## 焼却設備計画の経緯(3) (2016年)

2016年

- 1/27 第5回 空間線量調査会
- 4/20 第6回 空間線量調査会
- 6/ 3 第5回 第三者会議  
: 通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明
- 7/22 第7回 空間線量調査会
- 7/25 住民説明会開催(定期) : 進捗状況報告
- 10/17 第8回 空間線量調査会
- 11/8 第6回 第三者会議  
: 通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

## 焼却設備計画の経緯(4) (2017年)

2017年

1/27 第9回 空間線量調査会

4/24 第10回 空間線量調査会

7/3 第7回 第三者会議

:通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

7/20 第11回 空間線量調査会

7/25 住民説明会開催(定期) :進捗状況報告

10/17 第12回 空間線量調査会

11/ 8 第8回 第三者会議

:通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

## 焼却設備計画の経緯(5) (2018年)

2018年

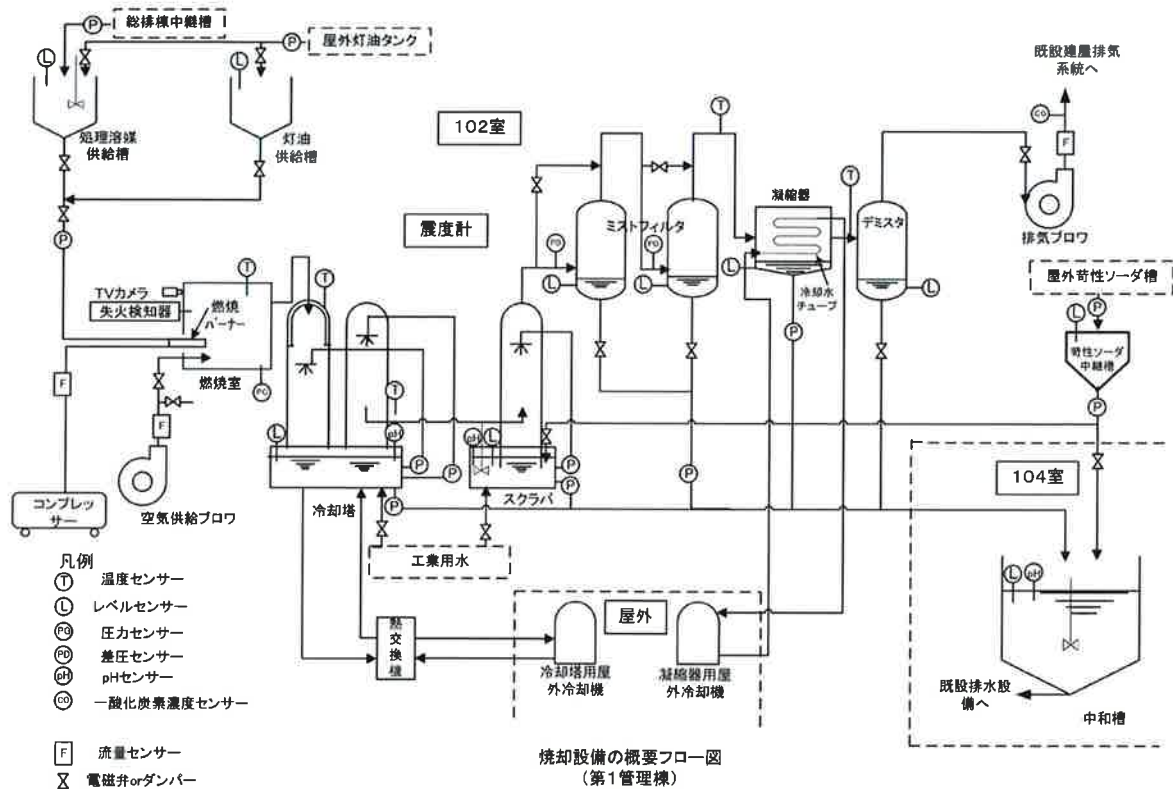
1/24 第13回 空間線量調査会

4/16 第14回 空間線量調査会

5/21 第9回 第三者会議

:通常運転状況見学、運転実績、点検対応説明

# 焼却設備の概要(1) 焼却設備の構成



180521第9回焼却活動第三者会議資料

21

# 焼却設備の概要(2)



焼却炉本体



冷却塔



スクラバ



ミストフィルタ

180521第9回焼却活動第三者会議資料

22

## 用語集

- ・保管廃棄物(放射性固体廃棄物)

固体廃棄施設内で保管中の放射性固体廃棄物。収納物は、紙、ポリ類等の可燃物と金属、コンクリート等の不燃物。旧加工設備の作業中の不用物や設備撤去工事における撤去物を鋼製容器(200Lドラム等)に密充填して固体廃棄施設に搬出する。

- ・固体廃棄施設

保管廃棄物(放射性固体廃棄物)を保管する施設(建物)。

- ・旧加工設備

臨界事故前に加工事業(ウラン粉末の製造)で作業していた設備。

- ・空間線量調査会

保管溶媒焼却の安全性確認のために設置され、定期的に(原則として年4回)、弊社敷地内4箇所の定点の空間放射線量率を、自治体にお立会いいただき 近隣住民の皆さまとともに計測し、焼却による環境への影響がないことを確認するための会議。

- ・第三者会議

保管溶媒焼却の安全性確認のために設置され、定期的に(原則として年2回)、焼却設備の運転状況を確認して いただくために、住民代表、放射性廃棄物の 処理・放射線管理・保安及びリスクコミュニケーションの専門家、自治体からのオブザーバーで構成される会議。

- ・30%TBP-nドデカン

TBP30%、ノルマルドデカン70%の容積割合で混ぜた油類。

- ・ベクレル Bq

放射能(放射線を出す能力)の量を表す単位 (放射性物質から1秒間に出る放射線の量)。

- ・検出下限値

分析装置で検出できる最小の値。安全協定の放出管理目標値より1桁低い値である。

- ・ $3.7 \times 10^{-10}$  ベクレル/cm<sup>3</sup>

0.00000000037 ベクレル/cm<sup>3</sup>、1立方センチメートル当たり100億分の3.7ベクレルの放射エネルギー。

- ・ $7.4 \times 10^{-4}$ ベクレル/cm<sup>3</sup>

0.00074 ベクレル/cm<sup>3</sup>、1立方センチメートル当たり1万分の7.4ベクレルの放射エネルギー。